

皆さんは、工業統計調査を知っていますか？ 明治42年(1909年)から続いていて、国勢調査よりも古い調査なんです。日本の製造業が官営製糸工場を出発点に重工業へと発展する中で、生産状況の把握のために工場統計調査として実施されたのが始まりです。その後工場調査、工業調査と名前を変えながら現在に至ります。

この明治から続く調査の結果のなかから、山口県の製造品出荷額等をグラフにしてみました。明治42年の調査では400万円だった製造品出荷額等が、平成26年の調査では6.5兆円まで増えています。貨幣価値が変わっているとはいえ、1.6万倍です。

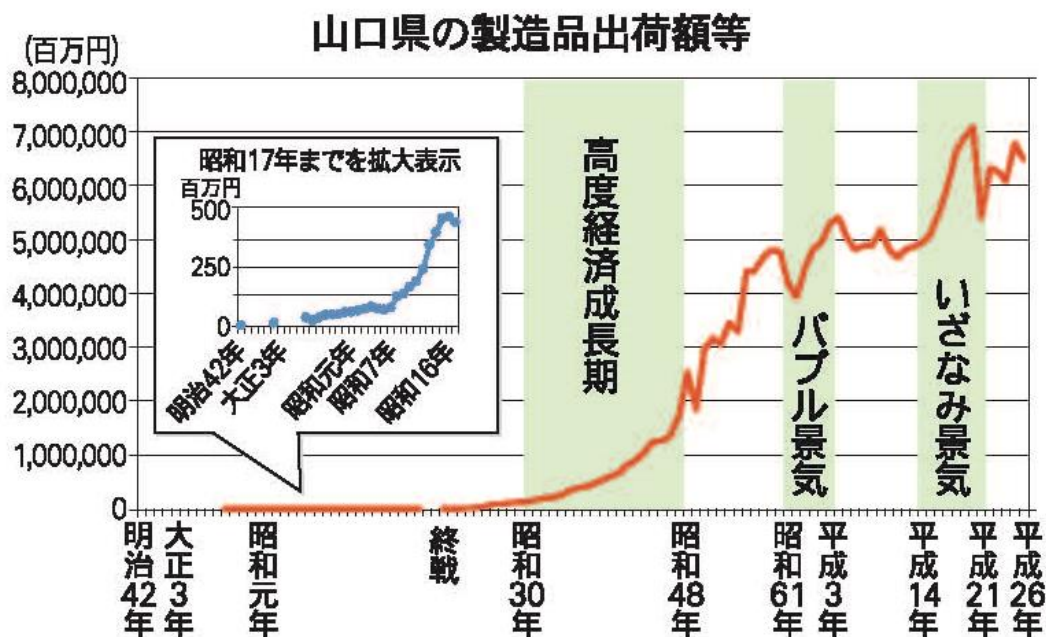
第二次世界大戦前についてみると、昭和7年(1932年)から昭和16年にかけてさらに重工業が発達し、この10年間で製造品出荷額等は6倍に増えています。

戦後では、高度経済成長期、バブル景気、いざなぎ景気の時期に大きく上昇していますが、なかでもいざなぎ景気の時期の上昇がこんなに大きいとは意外ですね。

でも、統計は歴史の学習のためだけに使われているわけではありません。ニュースなどでよく取り上げられる国内総生産(GDP)は、この工業統計調査の結果も利用して算出されているんですよ。日本の経済政策に私たちの製造活動の結果が使われていると思うと、経済のニュースも少し身近に感じられます。

百年以上も人々の製造活動を見守ってきた工業統計調査ですが、今回からは期日を12月31日から6月1日に変更して実施します。5月から6月にかけて、調査員が事業所を訪問します。

お手元に調査票が届きましたら、ご回答をお願いします。



出典：経済産業省「工場統計調査、工場調査、工業調査、工業統計調査」